

2026 年 10 月 16 日

**【SUPER GT 第7戦 /オートポリス】
大会直前情報**

10月17日(土)と18日(日)の2日間、大分県にあるオートポリスで2026年SUPER GT第7戦が開催されます。シーズン序盤に予定されていた第3戦が延期となったことで、フルウェイトでの戦いになる今大会には、GT500クラス1台、GT300クラス17台、計18台の車両がヨコハマタイヤを装着して挑みます。

上記の通り、第3戦がシーズン最終大会に組み込まれたことで、今大会は第7戦ではあるものの、シーズン6戦目の戦いとなります。SUPER GT独自のハンデシステムであるサクセスウェイトは、6戦目までが獲得ポイント×2kgのウェイトを搭載(あるいはそれに応じた燃料リストリクターと給油流量リストリクターを装着)し、ハンデとしています。次戦であるシーズン7戦目は獲得ポイント×1kgに減算するため、どの車両も今大会がシーズンで一番ハンデを背負って戦う1戦となります。

オートポリスはタイヤの耐久性に対してシビアな特性を持つサーキット。当然、ウェイトによる影響も大きく、シーズン終盤のこの1戦を耐え忍んでわずかでもポイントを稼ぐようなチームがシリーズランキングでも上位に並びます。さらに、今大会は3時間レース。昨年の決勝結果は優勝チームが102周を走破。計算すると470kmとシーズン8戦の中でも長い距離を走るレースとなりました。フルウェイトという例年以上に厳しい条件の中、最後までペースを維持できたチームが優勝争いに名乗りを上げることが予想されます。

シーズンも終盤に入り、気になるのはチャンピオン争い。GT300クラスでは、前戦SUGO大会でタイヤ無交換作戦を遂行し2位に入ったリアライズ日産メカニックチャレンジGT-R(ジョアオ・パオロ・デ・オリベイラ選手/木村偉織選手)がドライバーランキングトップを走っています。2位に対して21ポイントと大差をつけているようには見えますが、1レースでもノーポイントに終わってしまえばたちまち追いつかれてしまうことを考えれば、まだまだ油断はできません。それでも、ウェイトを積んでもひたひたと順位を

上げてくる力強さを持っているだけに、フルウェイトの今大会でも注目の 1 台です。また、リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R に 22 ポイント差の 3 位で CARGUY Ferrari 296 GT3 EVO のザック・オサリバン選手が、25 ポイント差の 4 位で梅垣清選手が並び、ここも十分に逆転のチャンスを持っています。



GT500 クラスでは、1 週間前に開催された全日本スーパーフォーミュラ選手権第 9・10 戦を直前のケガによって欠場した阪口晴南選手の状態が心配されていましたが、チームから阪口選手の回復状況など合わせて今大会に出走することが発表されました。GT500 クラスも上位勢のハンデは大きく、WedsSport BANDO H GR Supra も上位争いの期待がかかります。



年に 1 度の九州大会は、出身ドライバーやチームにとっては凱旋レース。ヨコハマタイヤユーザーでは、マッハ車検 エアバスター MC86 マッハ号(塩津佑介選手／荒尾創大選手)と、RUNUP × SOL GT-R(荒川麟選手／金丸ユウ選手)が九州に本拠地を持つチームです。地元の声援を力に変えてレースに挑む 2 チームにもご注目ください。

